

紙袋用取っ手の国内トップメーカー松浦産業(善通寺市)は、商品をこん包する箱に取り付ける紙製の取っ手「クラフトハンドル」を開発した。持続可能な開発目標(SDGs)への意識の高まりやレジ袋有料化で商品の包装を見直す企業が増え、環境に配慮しながら商品を入れた箱を直接持ち運ぶスタイルを提案することで、需要の掘り起こしを図る。

同社は、SDGsへの取り組みの広がりやレジ袋の有料化により、商品を入れた箱をさらにプラスチック製の袋に入れて持ち運ぶ従来のスタイルが変化していることに着目。古紙回収で分別が不要な紙製の取っ手を開発した。

「紙製」の取っ手開発

松浦産業 こん包スタイル変化受け



松浦産業が開発した「クラフトハンドル」

古紙回収で分別不要

クラフトハンドルは、ひも状にした紙を束ねた取っ手で、こん包用の箱に開けた穴に差し込んで取り付ける。多様なデザインの箱に合わせられるよう48色を用意。商品を入れた箱を直接持ち運ぶことで自社製品のPRにつながることをアピールしている。

同社によると、プラスチック製の袋が減少傾向にある中、商品の紙箱のデザインに力を入れる企業が増えているという。同社は持ち手部分をひもやリボンにした取っ手も開発しており、松浦英樹副社長は「SDGsに取り組み姿勢を示したい企業は増えている。新しい需要をつかむことで販路を広げていきたい」と話している。

四国の鉱工業生産指数



スの感染拡大に伴う緊急事態宣言が首都圏などで継続していたが、同局は「前月の状況とほぼ変わらない。新型コロナウイルスで低下していた多くの業種で、緩やかな回復傾向が続いている」としている。

業種別にみると、上昇が8業種、低下が6業種。低下した主な業種は、電気金、銅で製造設備の定期点検による一時休止があった鉄金属が17・5%減、新型コロナウイルスの影響で、鋼船の建造数が減少した輸送機械が9・0%減となった。

上昇した業種は、集積回路で需要増があった電気機械が6・7%増。包装用フィルムで自宅で調理して食べる内食需要の高まりから、ビニール袋が伸びたプラスチック製品が7・5%



吉村准教授(左)に目録を手渡す中條部長(中央)と中山担当部長(右)高松市林町、香川大創造工学部

会見で避難呼び掛け

四国地整局 洪水時の机上演習

高松市林町の同学部で20日、寄贈式があり、大紀商にも学校や自治体へ寄贈し、事の中條明人技術開発部長



会見で迅速な避難を呼び掛ける四国地方整備局の担当者(高松市)

梅雨期や台風シーズンを前に、洪水災害に備えた机上演習が20日、高松市の高松サンポート合同庁舎であった。住民に迅速な避難を促すための記者会見も初めて取り入れ、参加者は一刻一刻と変化する状況に応じた情報伝達の手順などを確認した。

演習は、四国地方整備局が関係機関との連携強化などを目的に毎年この時期に実施。台風の影響で四国地方が大雨となり、河川が氾濫する恐れがあるとの想定で開始した。

記者会見は、災害の危険性を迅速に発信し、住民の的確な避難行動につなげてもらうことと実施。動画投稿サイト「ユーチューブ」やウェブ会議システムなどを使って中継した。四国地整局の担当者は浸水が想定される区域を示しながら、河川が氾濫危険水位に達したことや、3時間後にダムが緊急放流が始まる可能性があることなどを説明し、住民に避難を呼び掛けた。

同局の担当者は「洪水時の河川やダムの水位情報などが確実な避難につながるよう、関係機関との連携を深めたい」と話した。